



—東地中海地域ニュース—

レバノン：抵抗運動などをめぐる最近の政治指導者の発言

(25日付現地報道)

南レバノン解放（イスラエルの南レバノンからの撤退）10周年に当たる5月25日、レバノンの政治指導者たちは、抵抗運動と国防戦略などに関する発言を行っている。関係する報道を取りまとめると、概要は以下の通りとなる。

1. ナスラッター・ヒズボラ書記長の演説（シーア派）

- (1) 次の戦争でイスラエルがレバノンの海岸と港湾を封鎖すれば、地中海からイスラエルの港湾に向かう軍および民間の全てのイスラエル船舶は、抵抗運動のロケットの目標とされるであろう。イスラエルから出航し民間人が乗船する船舶については、航行を認める。
- (2) レバノン国民、国軍および抵抗運動によるレバノン防衛は、施政方針において表明され、スレイマン大統領も表明した公式な立場である。
- (3) 自分（ナスラッター書記長）は、（シリアからヒズボラへの）スカッド・ミサイルの移転について否定も肯定もしないが、全ての騒動は、イスラエルが米国議会から200ないし250百万ドルに上る支援を獲得することを目的としたものである。

2. ジャアジャア・レバノン軍団党党首（3・14グループ、マロン派）

国防戦略に係るスレイマン大統領の立場は、一政治グループを代弁するものであり、レバノン国民全ての見解を代表するものではない。スレイマン大統領が、大統領選出時に集まったレバノン国民を前に行った就任演説で表明した立場に立ち返ることを希望する。

【参考：シリアによるヒズブッラーへの武器供与】

2010-04-13

イスラエル各紙は、クウェイトのアル・ライ紙の報道を引用し、高性能武器を搭載したトラックがシリアからレバノンのヒズブッラーに向けて運搬された可能性について報じた。また、その中では、米国政府が本件に関する最新情報が得られるまで、2005年以来不在となっている駐シリア米国大使への就任が予定されていたロバート・フォード氏の同職任命を延期したとされた。

2010-04-14

イスラエルのエルサレム・ポスト紙は、シリアからレバノンに対する高性能武器の移送が地域を不安定化させ、国連安保理決議への違反となるとのバラク国防相の発言を掲載。

2010-04-21

米国国務省のジェフリー・フェルトマン国務長官補は、議会の公聴会に出席し、シリアが高性能武器をレバノンのヒズブッラーに供与している場合、本件を極めて強く憂慮すると述べた。その上で、フェルトマンは、本件が事実であると判明した場合には、シリアに扇動的かつ挑発的な行為を取り止めさせるために米国があらゆる手段の行使を検討すると述べた。国務省は依然として本件を調査中。

2010-04-27

イスラエルのバラク国防相は、訪米し、ゲイツ国防長官と会談した。会談後、同長官は、ヒズブッラーが世界各国の政府以上のロケット弾やミサイルを所有していると述べた。また、同長官は、シリアやイランがヒズブッラーに高性能武器を供与していることを非難するとともに、イランの核開発がもたらす脅威への対応計画のペースに満足していると述べた。

2010-04-29

米国のクリントン国務長官は、米国ユダヤ委員会（American Jewish Committee）の年次総会で演説を行い、イランとシリアに対して、イスラエルの安全保障へのコミットが米国にとって揺るぎないものであると述べた。また、シリアによる高性能武器のレバノン及びガザへの供与が中東で新たな紛争の火種となる可能性を指摘し、イスラエルの安全保障にとっての脅威が増大しており、対処されねばならないとも述べた。

2010-04-29

国連のラーセン特使は、中東における紛争の危険性が緩和されたことを指摘する一方、レバノンにおける重武装勢力の存在は、国連安保理決議 1559 に違反しており、対処が求められていると述べた。また、同特使は、イスラエルと米国がシリアによるレバノンへの高性能武器供与を非難した直後に出された国連事務総長報告書について触れ、（ヒズブッラーのような）重武装勢力の存在が常にテンションを生み出すと述べた。